

3月定例記者会見 会見録

3月2日(金)11:00～

質疑応答

■鳥獣被害防止計画

記者 発表事項での鳥獣被害防止計画についてお伺いしたいんですけど、市長がおっしゃっていたとおり、イノシシによるけが人が出たということで、対策が急がれるところではあると思うんですが、事故があってから、猟友会の方によるパトロールをやってらっしゃると聞いたんですけど、計画が承認された後、国からの補助金を活用して今後どのように対策していくのか教えていただけますでしょうか。

市長 今までそもそもこの計画がなかったことが異常だと私は思ってます。今回、国の補助金が出るような枠組みができましたので、市独自の補助の部分と県の補助の部分、国の補助の部分で、それぞれどういうものがあるかというメニューの整理をしまして、それをそれぞれの皆さんに、区会の皆さんにお示しをしまして、こういうパッケージがあります、こういうことが可能ですというのを御提示しているところです。今後の申請については、区会でも準備しきれないところが2、3あったので、このメニューをもう少し広げて、それぞれの皆さんに使っていただきたいと思いますし、それをやはり整理するのが我々の大きな仕事だと思っております。どれだけ使いやすくその申請を分かりやすく進めてもらうかという中で、地域の声を聞きながら、市の独自の部分についてはそういうものが必要だという風に考えています。

記者 メニューというのは、わなの補助とかそういうことですね。

市長 はい。担当から詳細について説明します。

農業政策課 ただ今、市長から説明がありましたとおり、国それから県それから市町村、いろいろと活用する補助金のメニューがございます。一番ネックになっているのがその区長さんからどういったメニューを使ったらいいのか、これを分かりやすく整理をしまして、この後、区長さんに分かりやすくなったメニューを提示しまして、各地区の状況に応じた、今おっしゃったようなイノシシ捕獲のためのわなとか、抑止するための電気柵とか、そういったものをこれから区長さんに説明差し上げて、来年からイノシシが生活区域から出て行くようなことをやりたいと考えております。

記者 ありがとうございます。その中で、これは県とかが補助金でできることだと思うのですが、市独自の方針というのは具体的に何かありますでしょうか？

市長 補助金の中で、市独自の補助金というのを整理していますので、どの部分が独自かについては、担当から説明します。

農業政策課 御手元の資料で、例えば草刈りをしたい場合であるとか、イノシシを捕獲した場合、こうしたものが市独自の現時点で活用できるメニューとなっております。これ以上のものにつきましては、ただ今整理中でございます。

記者 これ以外については来年度以降検討していく、という感じでしょうか。

農業政策課 はい。そのとおりです。

毛塚副市長 平成 29 年度の自前の捕獲報償金は、本来は国から出るのですが、まだうちとしては計画策定をしていなかったもので、市独自のものとして作っていくものです。

記者 その計画策定後は国から出る、ということでしょうか。

農業政策課 一定の条件の下に国から出るものと県から出るものがございます。

■筑波山地域ジオパーク

記者 ジオツアーについてお伺いしたいんですけども、ジオパークが取り消しされていたりして、ジオガイドの活用が大事になってくるのかなというように思うのですが、これを皮切りに、今後の活用として市としてのそのガイドさんたちの活動方針だったり、どういう風に運用していくのかっていうのはあるのでしょうか？

市長 先日もジオパークの総会をやって、相当危機感を持っていろいろ問題提起をさせてもらったんですが、大事なことは市民にどれだけ広まるかということだと思っていますので、ジオガイドの皆さんの活動を広めていくと同時に来年の 2 月に筑波山のジオパークで、ジオパークの関東大会というのを開催しますので、そこに向けてジオガイドの皆さんといろいろ相談をしながら、どういうアプローチがあるかとか、どういう活躍をしていただくのかとかそういったことなどをどんどん進めていきたいなと思っています。補足あればお願いします。

ジオパーク室 初めて 2 月に認定ジオガイドが 42 名誕生しましたので、来年度はスキルアップを積みまして、関東大会で活躍していただくことを検討しています。

記者 実際の大会運営をガイドさんに担っていただくことになるのでしょうか？

ジオパーク室 筑波山地域ジオパーク推進協議会は 6 市で構成しておりますので、その方が中心となり、ガイドの方・市民の方にお手伝いいただいて、大会を運営する予定です。

記者 ありがとうございます。

■避難訓練コンサート

記者 カピオで避難訓練コンサートというものがあるんですけど、これは例年実施しているものか今年初めてのものなんですか？

市長 今年これ自体は初めてです。結局、今までお客さんを入れないで避難訓練をしていたのですが、それは意味ないので、ということでお客さんに入っていて訓練を実施するということです。詳細は文化振興財団の理事長から。

飯野副市長 カピオを担当しております。例年が、通常は法定の避難訓練、法定と言いましても、事務室の職員が外に行って消火器の操作をしたり、そういう訓練は法定でやっています。この訓練は今回が初めてということです。今回こういう訓練を実施するに至ったのが、毎年同じことをやっても、実際災害があったときに、それ

が役立つのか常に疑問を持っています、今回実際の人が集まったらどうなるかということで実施することになりました。

記者 これって事前申込みということで、抜き打ちではないと思うのですが、今何人ぐらい集まっているのですか？

飯野副市長 今申込みは 150 弱くらいです。もちろん避難訓練コンサートと認識していただいているのですけれども、どの時点で避難になるかというのはもちろん秘密、というか知らされておられません。

■鳥獣被害防止計画

記者 イノシシなんですけれど、独自策はいろいろ検討なさっているということですが、ただ、私の経験なんですけど、以前福島県の伊達市で、原発事故でイノシシを捕獲していたんです。昔はイノシシを捕獲してジビエ料理していたんですが、食べられなくなってしまった。まあ仕方ないんで、とはいえイノシシは増える一方で、どんどん捕獲して、皮のキーホルダーだったり、皮のシューズを作ったり、そんなことをやってたんですね。非常に興味深くて取り上げたんですけど、とはいえコストが掛かるので厳しいという面もあるんですけど、そこも取り組みとして面白いのかなと思ったんですけど、そういった捕獲、猟師に言わせると一応捕獲して持って行く商品になるのでうれしいとか、お金がもらえるのでうれしいとかそんなメリットがあったと思うんですけど、別に特に回答を求めているわけではないんですけど、ちょっとそこんところよろしいですか。

市長 ジビエについては議会でもたくさんご質問いただいていたし、もちろん放射線のこともあります、どういう形が可能なのかというのを、常に他自治体を調査しながら検討していきます。

記者 これまで策定されていなかったということがおかしいという趣旨を話していましたが、これは策定されていない理由はどのようにお考えでしょうか。

市長 必要性は皆認識していましたし、議会でも神谷副議長から問題提起がありました。さまざまな理由があったと思いますけれども、結果として作られていなかったのはお察しいただくしかないのかなと思いますけれども。分かりませんが。何かありますか？

毛塚副市長 今回地域の機運が高まったというのが大きいと考えています。今までは各地域の関係者がばらばらでなかなか行動しにくいところもあったのですが、昨年地域の方々が要望書を持って市役所に、計画策定の依頼というものを持ってきたきました。そのような地域のバックアップもありまして、今回策定につなげることができたのかなと思っています。

記者 ありがとうございます。イノシシの防除に対して、どのくらい生息数いるのかです

とか、移動ルートですとか、かなり生態の調査をしてから、それから頭数とかの削減の計画が必要なのかと思うんですけども、そういったイノシシの生態ですとか、どれくらいの数があるのかとか、そこら辺の調査は行っているのでしょうか？

毛塚副市長 市として把握することは難しいです。筑波山はいろんな所に位置しますので、市としては正確な生息数というのは出していません。県で毎年出しているデータがありまして、それだとどんどん増えている傾向がありますので、早急な対策が必要だと考えております。

記者 ありがとうございます。

■東日本大震災への所感

記者 市長に伺います。まもなく東日本大震災から8年目を迎えますけれども、市内でも結構避難者の方がいたりですとか、移住した方とかが多いですけど、東日本大震災の3月11日を迎えるに当たっての市長の所感と今後の避難者への対応や今後の防災の取組についてお話を伺えないでしょうか？

市長 私の個人的な話をすれば、妻の両親が南相馬出身でして、家も流されまして、つくばに避難をずっとしていました。南相馬には帰れませんので、牛久に中古物件を見つけて住み始めました。全くもって過去のものでも何でもないですし、避難をしている人たちの状況というのは、私も全く風化しようもないんですけど、ただ、世間的に見ると、多くの方が過去のものにしてしまっているなという印象をちょっと受けていますので、そういう風にならないとかだれでも当事者になりえる、起こりえるというのを含めて、節目節目にメッセージを発信していくとか、式典をやるとか。そういうことは非常に重要なことなんじゃないかなと思っていますし、当然今さまざまな行政の災害発生時の個別のマニュアルの詳細を作っているところですけども、危機管理の訓練とかですね。何かあったときに迅速に適切な対応ができる組織にしていかななくてはならないという思いを強く持っております。

記者 ありがとうございます。

■G20の関係閣僚会議

記者 今日テレビの報道であったんですけども、G20 サミットに絡んでですね、つくばでデジタル分野を担当する閣僚会合が開催されるという方向で調整されているという報道がありました。このことについて市長が何か御存じでしたら教えていただきたいな、と思ったんですが。

市長 県がG20の関係閣僚会議の誘致をしている、手を挙げていたことは把握をしておりますが、そういう中で、今回の件はまだつくば市に特段の連絡は来ていません。県に確認はしましたが、政府から正式な連絡が来ているという事実はない、ということでありました。今後つくばで関係閣僚会議が開催されることになれば、当然

茨城県と連携し、あるいはほかの研究機関や大学もありますから、そういう皆さんと協力して取り組んでいきたいと思っております。

記者 県の要望は知っているけど、それ以上のことは伝わっていないということですよね。

市長 はい。これは報道された皆さまがどういうルートで情報を手に入れたか分かりませんけれども、先日も G20 の本体の方が福岡で、その後大阪でということもありましたので、ちょっと今の段階ではまだなんとも分かんないのかな、という感じはしていますけれど。

記者 市として要望したというわけではないんですか？

市長 県が主導してやっておりました。

■クレオ跡地

記者 毎回質問していきまして、予算内示の記者会見でも質問させていただいたんですけど、クレオの跡地についてはその後進展というのはありますでしょうか？

市長 2月の予算内示の記者会見のとき等から大きな変化はありません。

■契約・入札の調査

記者 昨年、教育施設課で本来、一般競争入札の案件を分割して随意契約で、発注していた問題がありました。それを調査しているとのことですが、その結果というのは、いつごろまでにまとまるのでしょうか？

市長 今の調査状況については総務部長から。

総務部長 随意契約と一般競争入札の仕切りが、うまくいっていないということの調査の件ですけれども、全庁的に昨年から調査を行なっています。部分的に疑いのある工事案件等を既に把握しています。ただ今後具体的な内容の詳細等の聞き取りを実施しようと考えております。聞き取りの時期ですが、新年度になってからになると思います。現在は完全に終了しておりません。

記者 そうすると調査っていうのは、これから聞き取りを実施することなんですか？

総務部長 既に調査を行なっています。疑いのあるものをピックアップしております。今後、聞き取りを行ない、事実上本当に問題があったのかを確認する作業が残っています。

記者 これは何年間くらいに渡って調べるのですか？

総務部長 これは文書の保存期限の問題もありますので、さかのぼるにしても限界があります。今現在やっているのは、3年間を目安に調査を行なっています。

記者 来年度中には、何かの形で公表するってことですかね？

総務部長 そうですね。まずそういう実態を把握して聞き取りをして、確かにこれは改善の必要性を確認したら、それを改善して今後、再発防止を徹底してまいりたいと思っています。

記者 分かりました。ありがとうございます。